

会社



* 近畿

大木工藝（大津市） 大木 武彦社長（下）

世の中にはない製品を作る

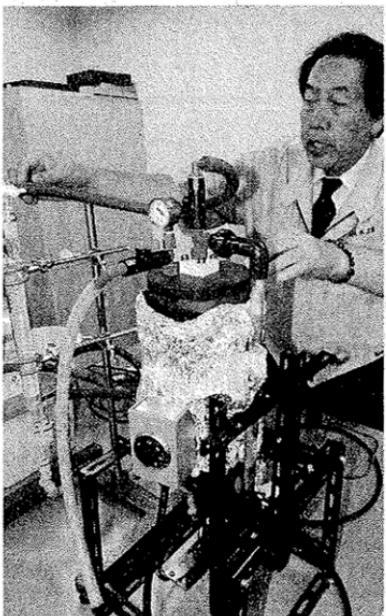
1996年、龍谷大に研究室を置き、炭素を使った新製品の開発を产学研連携で進める態勢を整えた。翌97年には株式会社化した。これまで、炭素が発する遠赤外線の温熱効果を生かしたネックレスや、歯茎の血流を促して歯周病を防ぐのに効果がある器具を、大学や大手化学メーカーと共に開発した。

現在、高密度の炭素を使つた小型蒸留装置や、炭素をシート状に薄く延ばして使つた

壁紙の開発に取り組んでい る。壁紙は蓄熱・蓄冷能力が

高く、かなりの省エネ効果を得ることができる。今では売り上げの9割までが炭素関連の製品で、「この素材はまだまだ可能性がある」と手応えを感じている。

東日本大震災や円高で、国内の景気の先行きは不透明



炭素を用いた塩水の蒸留装置。产学研連携が開発を後押しする（大津市の龍谷大瀬田キャンパスで）

かかつても諦めず、「いける」と感じじるまで粘り強く取り組む。そうやってアイデアを形

にしてきた。今後も炭素を使つて、世の中にはない製品を作り出していく。たい。

だが、怖がつていては新しいものは生み出せない。世の中に必要なものを送り出せば、必ず売れると信じている。

私は、

目をつけた商材を自分でとことん研究する。何年